

平成29年度
地球環境『自然学』講座
第6回

テーマ

「桃李もの言わざれど、下、自らみちをなす」

講師

(有) 桃李舎 代表

梶田 洋子 先生

平成29年6月24日

認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

梶田 洋子（ますだ ようこ）

（有）桃李舎 代表取締役

大阪市内で女性5人の建築構造設計事務所を営んでいます。全員、1級建築士の資格を持つエンジニアです。地震や台風、雨や雪といった自然の現象を予測し、建物を支える骨組みが、それらに対して耐えられるかどうかを計算や実験で確認し、人々の命を守る建築を作ることが仕事です。



略歴

- 1959年 大阪市生まれ
- 1978年 大阪府立大手前高等学校卒業
- 1984年 京都工芸繊維大学工芸学部住環境学科卒業
- 1984年 有限会社 川崎建築構造研究所入社
- 1989年 桃李舎一級建築士事務所設立
- 1993年 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科修士課程 修了
- 2004年 有限会社 桃李舎とし現在に至る

現在進行中の各種委員など

岡山県立大学非常勤講師（2011年～）

（一社）日本建築構造技術者協会理事（2017年6月20日まで）

（一社）日本建築構造技術者協会関西支部副支部長（2017年6月より）

受賞歴

- 2003年 日本建築学会 2003年度技術部門設計競技—火災に強い高層木造建築システム優秀賞
- 2005年 ひょうご住宅耐震改修コンペティション最優秀賞
- 2006年 JSCA賞 作品賞 「西有田タウンセンター」
- 2010年 日本建築学会作品選奨 「志井のクリニック」
- 2010年 都市住宅学会業績賞 「豊崎の長屋」 大阪長屋の再生—豊崎長屋における社会実験—
- 2011年 第25回大阪市ハウジングデザイン賞 「Courtyard House 湯里」
- 2015年 日本建築学会作品選奨 「行橋の住宅」
- 2015年 第10回日本構造デザイン賞 「行橋の住宅」
- 2016年 第1回大阪サクヤヒメ賞—大阪商工会議所
- 2017年 日本建築学会作品選奨 「春日の住宅」

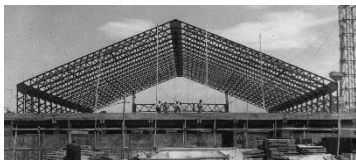
演 題 「桃李もの言わざれど、下、自ずからみちをなす」

講 師 桃李舎 榊田洋子

私は建築の構造設計に携わる技術者です。災害に強い安全な建物を作るのが仕事です。柱と梁と壁で構成される建物の骨組みを、数学や物理の理論を使って解析し設計図を作ります。工事が始まると図面どおりに作られているかを現場で監理し、完成まで見守ります。この20回の講座の中では最も自然から遠い職業だという印象をもたれるかもしれません。でもそうではありません。

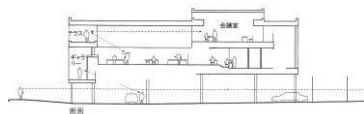
専門の話は難しく、どのようにお話をすればいいのかとても悩みましたが、田中克先生からいただいたこの演題を手がかりに、仕事を通して出会った自然が私に教えてくれたこととお話したいと思います。以下に、講演のテーマの流れに沿って箇条書きにします。私が歩んできたこれまでの職業人生と言い換えてもいいかもしれません。ではこれからの3時間、どうぞよろしくお願いいたします。

～1959



DNA

1979 年



京都工芸繊維大学でのデザイン教育

1982 年



重力にしたがって力が流れが見える架構
構造設計との出会い

1984 年



川崎建築構造研究所での修行時代

1987 年



沖縄の海が教えてくれたこと

1988 年



構造の仕事をやめて都市計画の道へ

1989 年



アジアからの留学生との出会い
再び構造設計の道に戻る



事務所設立
「桃李不言下自成蹊」



構造設計に没頭
鉄とコンクリートの美しい建築

1995 年



阪神大震災
甚大な木造住宅の被害
人智を超える自然の営み
技術者としての社会的使命

1999 年



日本の伝統的な木造建築の再発見

2003 年



伝統構法を生かす木造の設計法の確立
マニュアルの執筆と出版



老朽化した木造住宅の耐震補強
大阪の戦前長屋の再生



木造を支える森との出会い
日本の森が教えてくれたこと

2005 年



耐震偽装事件
職業倫理

2011 年



東日本大震災と原発事故
東北の海が教えてくれたこと



トーチカ設立
テーマ毎の勉強会



災害に強いコミュニティを目指して
町内のひとたちを招いたイベント

2012 年



女性の職場

2016 年



女性エンジニアによる小さなシンポジウム
@ ドーンセンター



大阪サクヤヒメ
大阪の女性リーダーとの連帯